

昭和37年10月号

第140号

＜おもな目次＞

- | | |
|--------------|----|
| ◇「安全都市」を宣言 | 1頁 |
| ◇先住民の慰靈祭 | " |
| ◇第2回市議会定例会から | 2頁 |
| ◇36年度水道事業決算 | " |
| ◇室蘭の回顧座談会…② | 3頁 |
| ◇秋の火災予防運動 | 4頁 |
| ◇秋の企画 東北豪雪記念 | " |

毎月1回 発行 室蘭市 編集 総務部庶務課 印刷 室蘭印刷KK

〈安全都市宣言文〉

わが国の産業、経済、文化の発展はめざましいものがあるが、その反面、交通事故を始め産業災害、水火災などの各種災害は年々増加の傾向にあり、ために人的、物的の損害がばく大なものがあることは、まさに憂慮にたえないところである。

わが室蘭市においても、ふくそうする交通事情からくる交通事故の続出は大きな社会問題化しており、さらに本邦有数の重化学工業都市、重要港湾として発展の蔭に悲惨な産業災害もそのあとを絶たず、市民の日常生活を脅かしている現状はゆるがせにできないところである。よつて全市民協力一致の元にこれらのあらゆる災害を絶滅し明るく住みよい都市の建設のため、室蘭市を「安全都市」とすることをここに宣言する。

市がかねてから準備をすすめていた「安全都市宣言」が、九月開かれた第二回市議会臨時会で満場一致議決になり、安全都市として強力な運動を展開することになりました。

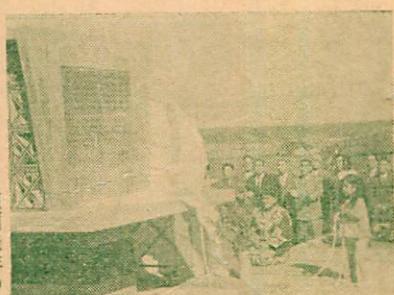
このため、近く安全都市宣言市
民大会を開いて、全市に安全都市
の氣運を盛りあげるとともに、市
内各階層による安全都市推進委員
会をつくり、安全思想の普及、事
故防止対策の企画や指導などをす
すめることにしています。

すべての災害を防止し

安全都市 を宣言

慰靈碑の除幕

先住民の慰靈祭 繪鞆半島に碑を建立



先 絵
が室蘭開港九十年、市制施行四十周年の行事の一環として建

◎市営野球場使用料

区 分	単位	使 用 料		摘要
		入 場 料 を 徵 収 す る 場 合	入 場 料 を 徵 収 し な い 場 合	
専 用 使 用 料	職 業	1日 入場料総額の1割	5,000 円	1日とは8時半日まで30分をいかう
	一 般	半日 入場料総額の0.6割	3,000	1330時まで、17時30分までは13時から17時30分
	学 校、生徒	1日 最高入場料の100人分	2,500	1日とは8時半日まで30分をいかう
	児 童 等	半日 最高入場料の60人分	1,500	1330時まで、17時30分までは13時から17時30分
	職 業	1日 最高入場料の50人分	1,300	1日とは8時半日まで30分をいかう
	一 般	半日 最高入場料の30人分	800	1日とは8時半日まで30分をいかう
	学 校、生徒	1時間	400	1日とは8時半日まで30分をいかう
	児 童 等	1時間	200	1日とは8時半日まで30分をいかう
	施 設	場 内 放 送	1日 2,000	1日とは8時半日まで30分をいかう
	器 械	密 判 用 具	1回 300	1日とは8時半日まで30分をいかう

提出案件は、一般会計才入、才出追加予算、東町じん芥焼却場新設市営五号上屋新築工事などの議案二十七、昭和三十六年度の水道事業決算の認定案一、諮詢案四などでいずれも原案どおり決定し、二十八日閉会しました。

おもな議案はつきのとおりです

△第三回市議会定例会は、九月二十五日から四日間開かれました。提出案件は、一般会計才入、才出追加予算、東町じん芥焼却場新設市営五号上屋新築工事などの議案二十七、昭和三十六年度の水道事業決算の認定案一、諮詢案四などでいずれも原案どおり決定し、二十八日閉会しました。

じん芥焼却場の建設などきまる

▽第三回市議会定例会から△

になりました。

かわつた条例

▽都市公園条例の一部改正

中島公園の市営野球場ができたので、新しくこの使用料を別表のようにきめました。

教育委員に河野氏

△市教育委員河野琢磨氏は、九月三十日で任期満了になりますが今議会で、再任されました。

固定資産評価審査委員に実松氏（再）栗林氏（新）

△市固定資産評価審査委員であつた藤田三郎氏（第一部会）の死亡とともに後任に、栗林忠平氏が、また十月一日に任期満了となりる実松一次氏（第一部会）は再任にきました。

・総額 3億3291万円・

健全財政の36年度 水道事業決算

総額三億三千二百九十一万八千余円の、昭和三十六年度水道事業会計決算が、今議会で認定になりました。

収益事業では、収入は二億四千八百九十余万円、支出が二

億百三十七万余円

で、純利益は四千六百五十四万八千余円

となり、前年度から

の繰越利益二百余万元とあわせ、合計四千八百七十余万円の利益になります。このうち、昨年十月の集中豪雨による被害が三百七十万余円で

主な理由といえます。

資本的収支では、収入は八千四百万円、支出が一億二千七百七十八万余円、差引き四千三百七十八万余円で、差引き四千三百七十八万余円の不足になりますが、これは前述の当年度利益充當金や、減価償却費、資産減耗費などで補て

ます。

△富士鉄工業用水工事

△災害復旧工事 昨年十月の集中豪雨で被害のあった、各水源施設の復旧工事

△配水管新設工事 輪西高区直送配水管二千八百米を延長し、高台地区的給水を確保。

△富士鉄工業用水工事

△災害復旧工事 昨年十月の集中豪雨で被害のあった、各水源施設の復旧工事

△配水管新設工事 輪西高区直送配水管二千八百米を延長し、高台地区的給水を確保。

△富士鉄工業用水工事

△災害復旧工事 昨年十月の集中豪雨で被害のあった、各水源施設の復旧工事

△富士鉄工業用水工事

△災害復旧工事 昨年十月の集中豪雨で被害のあった、各水源施設の復旧工事

△富士鉄工業用水工事

△災害復旧工事 昨年十月の集中豪雨で被害のあった、各水源施設の復旧工事

△富士鉄工業用水工事

△災害復旧工事 昨年十月の集中豪雨で被害のあった、各水源施設の復旧工事

この収益は、法定積立金に二百三十万円、建設改良事業費に千七百余万円を立て、残り二千五百五

万元を立て、残り二千五百五

んし、収支の均衡を保っています昨年度の主な事業は、つぎのとおりです。

(一)配水管増設工事 本年度は小橋内地区第三・四工区と、祝津・中島地区に配水管を布設、全工事を完了。

(二)配水管改良工事 水道事業維持五年計画により、各地区の

業は、健全財政で運営されたわけです。

(三)配水管新設工事 輪西高区直送配水管二千八百米を延長し、高台地区的給水を確保。

(四)富士鉄工業用水工事

(五)災害復旧工事 昨年十月の集中豪雨で被害のあった、各水源施設の復旧工事

このほか、施設の維持管理面で

も、漏水防止月間を設け、漏水の調査、簡易無償修繕などを行ない

市民サービスにもつとめています

(町名地番整理)

▽住居表示の実施街区（第一次）と表示方法の決定

第一次（本年度）の住居表示区域を東室蘭第一土地区画整理地内とし、この住居表示の方法は、街字です。

▽東町じん芥焼却場新設工事

近代的な都市衛生施設「じん芥焼却場」を、東町のし尿処理場東側に工費一億五千七百万円で建設します。焼却場は鉄骨平家建て、面積八百九十平方米で、焼却炉は三和式で二十五トン炉四基を併列

▽室蘭市営第五号上屋新築工事

中央埠頭に工費三千百九十八万円で、鉄筋コンクリート造千九百八十三平方米の倉庫を新築、しゆん工十二月中旬。これで中央埠頭

～人権擁護委員に工藤氏～

本市の人権擁護委員として、つぎのかたが委嘱発令されたむね、札幌法務局から通知がありました

▽工藤藤十郎氏 祝津町

——開港90周年、市制40周年記念座談会

伸展する室蘭の回顧と将来を語る

② 明治中期～後期

富士鉄の構内が旧市街でしたね。
鶴田 そうです。それから馬車で室蘭に行きました。明治二十五年頃、二年間かかつて停車場や家ができ、輪西は非常に景気がよかったです。
たものであります。

司会 戸長役場はそのとき旧市街のほうに：まだ、本輪西に
添田 製鐵所ができてから、輪西に移りました。

田中 明治二十四、五年ころ、

船の風早丸やしんよう丸に積みえで持ってきたものです。
香川町は移住者の中の出身県名
古い頃のお話しを：
森田 香川県から移住して、
平に入りましたが、ほとんど、
川藩の所有地のため、原始林だ
た現在の香川町に入つて開墾し
ました。大体五町歩くらいでした
山菜が沢山あつたので、食糧と
て、馬鈴薯、トウキビを作りま
た。しかし、風が強いのと、だ
だん土地がやせてきたので、農
業を止め、ちょうど盛んになつて
た製鉄所や製鋼所に入る人も五
六割はありました、それで大正

争の結果から輸入にたよっていた兵器を国内で作ろうという氣運が非常に強く、また、どうせやるなら、製鋼事業を、さらに兵器生産をという政府の考えもあったようです。

国家的な大事業
日本製鋼所創立

国家的な大事業
日本製鋼所創立

明治40年創立の日鋼（建設中）

伸びゆく室蘭

写真コンテスト

◎ふるつて傑作をお寄せ下さい。
テーマ 伸びゆく室蘭の姿をとらえた明るい写真
賞 1部 (一般)
推せん1万円ほか
2部 (高校生以下)
金賞3千円ほか
しめ切らい年2月末日
送り先 市庶務課北報係か写真 材料商組合加盟店へ

現在、七月二十一日をお祭りにしていますが、これは六月に火入れし、二十一日の午後一時ころ八トンの銑鉄が始めてできたのを記念しています。当時の輪西は、いまではほとんど富士鉄の構内に入っていますが、三十戸くらいの民家とあとは渥美地帯で、会社ができるからには二百戸くらいにふえ、また拡張につぐ拡張で駅や鉄道も移設したようです。

